

西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

ホームページもご覧ください。

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



YouTube



市政・市議会報告



豊かな社会を未来に継承するために。

政治がおろそかにされる社会に衰退はあっても発展は望めないと考え、地方議員に挑戦して20年。政策に対する無関心が及ぼすツケは、必ず私たち国民が払うことになる実感してきました。将来への希望をもって次の時代を生きる「人」を育む文教住宅都市の発展のため、行動し続けます。現場に最も近い地方議員だからこそ、まだ、この国を継承するためにできることがあると信じて。

掲載
内容

●不登校児童生徒の急増対策 ●幼児期の教育保育ビジョン ●幼児期の食育の推進
●不断の議会改革に向けて ●これまでの政策提言のゆくえ ●保育所等の待機児童対策

不登校急増の原因分析すらできない状況は異常です。 教育環境

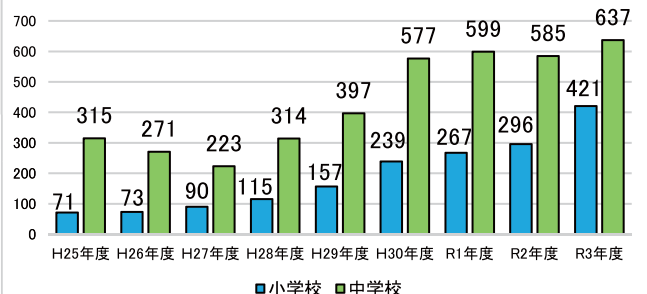
■西宮市でも不登校児童生徒が急増

令和3年度の西宮市立小・中学校での不登校児童生徒の人数は、小学校で421名（2クラスに1人の割合）、中学校で637名（1クラスに2名の割合）となり、近年増加傾向にあります。また、西宮市で不登校になる児童生徒の割合は、兵庫県や全国よりも高くなっています。私はこれまで、不登校の未然防止、早期対応を可能とする対策として、家庭での教育支援と訪問型の支援体制の構築を提案してきましたが、市は未だ受け入れず、対応が不十分かつ後手に回ることにより、増加に歯止めがかからない状況となっています。そこで、令和4年6月議会一般質問で改めて議論しました。

教育委員会は、不登校になる要因を「人それぞれ」「複合的」として、子育て家庭に対して不登校に関する情報を提供する考えはないと明言し

ました。私はこの閉鎖的な姿勢が様々な問題の根本原因であると考えています。これでは原因を分析することもできず、子供の育ちの視点からの対策が不十分となることは明白です。学校が課題を抱え込むのではなく、教育基本法第10条に規定されている通り、子の教育の第一義的責任を有する保護者が子供の状況に応じて主体的に家庭で対応ができるよう、子育て家庭に対して情報を提供することを求めました。

不登校児童生徒の推移(人)



政策提言 ～令和4年6月議会一般質問～

令和4年6月議会一般質問では、①不登校対応について(ア. 家庭教育支援、イ. 進路指導)、②幼児教育・保育ビジョンについて(ア. 食育、イ. 実行計画)を取り上げて政策を提言し、市と議論しました。



策定したビジョンの実現に向け、市の実行計画と進捗管理の必要性を指摘。

幼児教育

■やりっぱなしのお役所仕事からの脱却を

平成21年12月議会一般質問において、西宮市における「幼児教育のあり方」について取り上げて以来、「幼児教育」の重要性を訴え、市議会で政策を提言し続けてきました。そして市は、令和4年3月に「西宮市幼児教育・保育ビジョン(以下「ビジョン」)」を策定しましたが、**このビジョンを達成するために市が具体的に何をするのかが示されていません**。そこで、今回の一般質問において、以下のことを提言しました。

- ビジョンの実現に向けた市の実行計画の策定
- 官民連携の下での幼児教育センターの設置
- ビジョンの理解促進や実践例の普及と公立及び私立の職員研修の実施
- 市内の公立・私立各子育て関連施設での取組み状況の把握

今回は、幼児教育センターの設置についても、ようやく前向きな回答を得ることができました。今後も、時代の変化に対応した教育の実践を目指して、生活者の視点で政策を提言してまいります。

乳幼児期から「食育」を実践できる環境整備を提言。

幼児教育

■乳幼児期からの食育の強化と和食の普及を

策定されたビジョンでは、生きていく上で最も重要な「食」や「食育」について触れられていません。そこで、今回の一般質問では、

- 幼稚園や保育所、認定こども園で実践される農体験や収穫した食材を使った調理体験に要する経費の補助
- 市内の子育て関連施設での大豆栽培から日本の伝統的発酵食品であるみそ作りまでの体験
- 規則正しい食生活、日本に古くから伝わる和食の普及、食に対する理解の促進事業

を実施することを提言しました。今後、さらに具現化に向けて議論を続けたいと考えています。



市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園

不登校の未然防止と早期対応の取組みを提言。

教育環境

今回の一般質問では、不登校対応について、以下の内容を提言しました。

- 訪問型の「家庭教育支援チーム」の設置
- 保護者からの相談体制の強化
- ICT機器とソフトの活用による早期対応
- 子供の特性に関する教員の理解促進
- 早期のアウトリーチ型進路指導の実施

- 通信制高等学校に関する情報提供や経済的な負担の軽減などサポートの強化

未だ、教育委員会の姿勢は閉鎖的ですが、今後も、子供の居場所づくりや学校教育の検証も含めて取り組んでまいります。

この記事に対するご質問・ご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

提言した政策のゆくえ

市民から頂いたご意見をもとに、10年先を見据えて行った政策提言。その提言の結果についても検証していきます。

政策
検証

●登下校時の防犯「ミマモルメ」の導入

平成16年12月議会で、小学生の登下校時の防犯対策にICT技術の導入を提言。市は平成23年度から小学校で「ミマモルメ」という防犯システムを導入し、令和3年度から出欠連絡にも活用されています。

●「子育てひろば」「児童館機能」の拡充

平成17年9月議会で、親子が室内で過ごせる遊び場の拡充を提言し、平成24年9月議会では、41小学校区ごとに1ヶ所の室内の遊び場の整備を目指すよう提言。当時の9ヶ所から現在は20ヶ所で「子育てひろば」が実施されています。

●放課後の子供の居場所づくり「放課後キッズ」

平成22年12月議会で、学童保育での小学4年生以上の受入れとともに、全ての子供が参加可能な「放課後子ども教室」の全校実施を提言。平成27年度から「子供の居場所づくり事業」が始まり、令和4年度は「放課後キッズルーム事業」として26校区で実施される予定です。今後、学童保育の待機児童対策が急務です。

●避難所にもなる学校体育館へのエアコン整備

平成30年12月議会で、昨今の気候変動に対応するために提言。令和2年度に市立中学校、令和7年度までに全ての市立小学校の体育館にエアコンが整備される予定です。

●カラスによるごみステーション荒らしの対策

平成15年6月議会で問題を指摘。令和2年度からごみステーションのネットボックス購入費補助制度が始まりました。

●高齢者の居場所づくり・介護予防の推進

健康福祉常任委員会の令和元年度施策研究テーマの提言の中で、地域で実施されているつどい場等の取り組みや情報をWEBで提供することを提言。市は、「西宮市の社会資源」というWEBサイトを作成しました。



↑西宮市の
社会資源情報
サイトへ

不断の議会改革を

平成27年に市議会議員が制定した「西宮市議会基本条例」
条例の検証を提案。市議会も「やりっ放し」からの脱却を。

議会
改革

西宮市議会が進めてきた議会改革の内容を踏まえて、平成27年3月に「西宮市議会基本条例」を議員提案により制定しました。この条例を作って改革を終えるのではなく、規定された内容について、常に成果等を検証し、不断の議会改革に取り組む必要があると私は考えています。そして、41人の西宮市議会議員には、一人あたり年間約1180万円の報酬が支払われています。その市議会が住民福祉の向上のために、それだけの役割を果たしているのか、様々な視点で検証する必要があります。

そこで、政蘭会から、議会基本条例に規定されている条文に基づいて、

- 議員定数の妥当性に関する定期的な検証
- 条例で規定している「議会の機能向上」の達成状況の評価・検証
- 市民参画の促進の状況に関する検証
- 市議会から選出される「阪神水道企業団議員」や「西宮市都市計画審議会委員」の役割の明確化

について、議会で検討することを提案しました。不断の議会改革のため行動し続けます。

少子化と保育所等待機児童対策

保育
環境

■忘れ去られた「待機児童ゼロ」の市長公約

令和4年4月1日時点の厚生労働省が定義する保育所等の「待機児童」は52名(昨年から130名減)となりましたが、希望する保育所等に入所できていない「利用保留児童」は900名を超えています。

4年前の選挙で、現市長は「待機児童ゼロ」を重点公約に掲げていましたが実現されませんでした。にもかかわらず、**同じ4年前の選挙公約であった「市長の退職金ゼロ」と「給料の2割削減」は元に戻してしまいました。**

私はこれまで、待機児童対策として、

- 認定こども園への移行を見据えた私立幼稚園の預かり保育の活用や幼稚園教諭の不足対策
 - 定員増及び新設保育所設置のための財源捻出が可能となる公立保育所の民間移管
- など、提案を重ねてきましたが、市は受け入れようとしません。

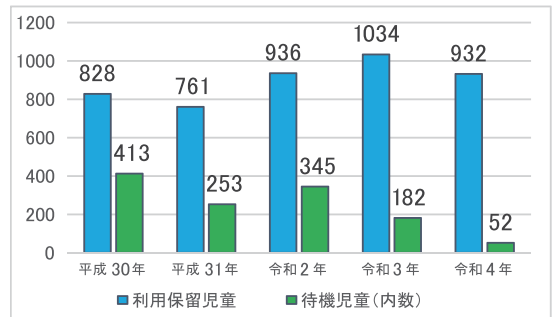
その結果、**ついに西宮市の人口は減少し始め、就学前児童数もピーク時(平成18年)から約2割(約6000人)も減少**しています。これは近年の市政運営による影響が現れ始めたと言えます。

■教育こども常任委員会で施策研究テーマに

令和4年6月議会において、私は「教育こども常任委員会」の委員に就任しました。そして、施策研究テーマとして「これからの保育所整備の方向性と保育所のあり方について」と設定し、集中的に調査研究をした上で、市に対して政策を提言することになりました。

幼児教育・保育ビジョンを策定しても、肝心の希望する全ての子供が幼児教育・保育を受けられない状況を、長年放置しては意味がありません。改善に向けて提言を続けますので、是非ともお気づきの点やご意見など情報をお寄せ下さい。

■保育所等の利用保留児童と待機児童の推移



この記事に対するご質問・ご意見は、
nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

発行責任者

profile

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議員事務所に4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)

■担当委員会:教育こども常任委員会

■政党:自由民主党

■これまでに就任した市議会での主な役職
厚生常任委員会委員長、西宮市監査委員、病院問題特別委員会委員長、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、建設常任委員会委員長、民生常任委員会委員長、第88代西宮市議会議長(41歳)

オンラインにも対応し、市政報告・意見交換会を開催しています。是非とも、ご参加ください!

「市民との対話なくして、真の政策なし。」

市政報告兼意見交換会をオンラインにも対応して再開しました。

意見交換会の日程や会場等のご案内は、LINEの田中まさたけ公式アカウントからもお送り致します。是非ともご登録頂き、ご都合の合う日程で、意見交換会にご参加いただけましたら幸いです。

LINE公式アカウントへのご登録は、こちらのQRコード→
をLINEアプリで読み取って下さい。

